

氏 名 たけだ のりゆき
武田 憲幸

学 位 博士（学術）

学 位 記 番 号 博（芸）甲 第 32 号

学位授与年月日 平成 28 年 3 月 19 日

学位授与の要件 学位規程第 3 条第 3 項該当

論 文 題 目 名 昆虫写真における博物学的表現の研究

審 査 委 員 主査 竹内 一郎

副査 櫻木 晃彦

同 森口 まどか

1、学位論文審査報告

1) 本論文の要旨は以下の通りである。

17世紀頃から19世紀頃にかけて、生き物を標本的または生態学的に記録し分類することで発達してきた **Natural History** (博物学) という学問があった。その編纂書物である博物誌の中には、動植物などの姿を正確に描写した絵図、すなわち博物画と呼ばれる博物学図譜が多数掲載されていた。それらの博物学図譜は、ていねいに手彩色が施されるなど、生き物を美しく正確に表現されていたため、博物学が「美的科学」や「生物学を主題とする芸術 (バイオロジカル・アート)」などともいわれてきた。

今日、昆虫写真において主流となっているような、あまりにも標本的、あるいは生態学的な記録性に主眼をおいた写真や、過度に昆虫の姿態を誇張表現した写真だけでは、昆虫本来の生き生きした姿を、より美しく、科学的に描写するには不十分であると感じていた論者は、昆虫写真をより美しく正確に表現するために、この「美的科学」と称される博物学の図譜における図像表現の特徴、すなわち「博物学的な表現」を、実際にレンズを通したカメラによる写真表現に応用することを試みた。

「昆虫写真における博物学的な表現」を探究し構築するために、まず第2章では、代表的な西洋の博物学者としてビュフォン、メーリアン、ケイツビーら14名、及び日本の博物学者として栗本丹洲が昆虫などの生き物を描いた博物学図譜、加えて日本画家として森 春溪、喜多川歌麿、伊藤若冲の3名が昆虫を描いた絵図の計41枚について、それらの図像表現の特徴を分析した。

第3章では、分析した図像表現の特徴、すなわち「博物学的な表現」を、実際に撮影が難しいといわれている昆虫写真の表現に応用するため、その撮影・制作の方法として、撮影の対象・使用機材・撮影の方法・服装・事前準備・撮影の姿勢について論じた。

第4章では、論者が、この撮影方法によって制作した昆虫の写真作品24枚を例に挙げて、それらの図像表現の特徴について分析した。

第5章では、科学性に主眼をおく図鑑について述べ、昆虫図鑑の写真8枚を例に挙げて、論者が制作した昆虫の写真作品の特徴について比較分析を行った。

第6章では、先行する代表的な昆虫写真家として、アンリ・ファーブル、田淵行男、佐々木 崑、栗林 慧、海野和男、今森光彦の6名、それぞれ4枚の写真作品24枚を例に挙げて、これらと比較分析することにより、論者が制作した昆虫の写真作品の特徴について、さらに明確にするために抽出を行った。

以上の分析結果から、論者が制作した昆虫の写真作品は、博物学の図譜における図像表現の特徴、すなわち「博物学的な表現」が十分に反映されているものと思われた。

論者にとっての「昆虫写真における博物学的な表現」とは、「昆虫自身の姿や動きを

瞬間的に精密に、相互関係のある自然物とともに捉え、昆虫の息使いや空気の存在を感じさせる空間の位置関係の中に、自然の豊かな色彩を取り込んで美しく表現すること」であり、「精密描写・空間構成・諧調表現」にあると考えられた。

論者が制作した昆虫の写真作品は、本論文に使用した写真を含めた 166 点について、2 回の写真個展（Nikon Salon bis 大阪）にて一般公開した。その中から公募展、日本自然科学写真協会(SSP)の全国回覧展、日本写真芸術学会誌などでも発表され、17 点が公募展において受賞した。また、昆虫写真集の出版が予定されている。

本研究で構築した撮影方法による表現描写は、昆虫以外の生き物の写真や、人物を題材にしたジャンルの異なるアート写真にも応用され、論者の写真作品に新たな境地を開いたといえる。

以上の内容から、理論と実践が見事にあいまった研究とみなすことができる。

2、学位論文審査結果の要旨

1) 上記の特徴を持っているという点を確認したうえで、本審査委員会は、審査過程を経て、本研究が博士（学術）の学位論文の水準に達していると結論する。

2) 研究テーマ

博物学的昆虫写真とは何かと、定義したことが収穫として大きい。

また、理論研究と並行して、実践して撮影した昆虫写真の豊富さも評価に値する。

3) 論述のスマートさ

本論文は、論者が薬学研究者であり、薬学系の論文を多数書いているので、非常に緻密に論理的に構成されている。

文献研究も精緻である。文献研究も丁寧で漏れがない。

十分にアカデミックな論文と評価できる。また、昆虫写真も芸術的とは言えないが、博物学的と定義された作品群には説得力がある。

3、最終審査結果

以上、学術論文としての三つの視点から、慎重に審議を重ねた。

本研究が、博物学的昆虫写真を定義したことも高く評価し、また実践した作品群の説得力からも、先駆的研究として学位に値するものと、審査員一同が同意したことを報告する次第である。